

太陽の子

2026年 1月 No.194

冬の号

発行



日立市助川町5-14-8
TEL (23) 2620 FAX (33) 9150
ホームページ <http://www.taiyonoie.com>
Eメール npo@taiyonoie.com
NPO法人 日立太陽の家
日立重症心身障害児(者)を守る会
日立太陽の家支える会



先生をお迎えしてトランスファー実践勉強会がありました。身体の構造を学びスムーズな動き、無駄のない動作を使い利用者さん、職員も安全に過ごせる努力を積み重ねます。

素敵な時間をありがとう

日立太陽の家 主任相談支援専門員 横田 寿子

「会話」は楽しいものですね。心が軽くなる。気持ちが明るくなる。楽しくなる。嬉しくなる。相手の方の気持ちがわかる。自分の気持ちを伝えられる。心と心が少しでも通じた会えた一瞬が出来る。気持ちを通じ合うこと、自分と相手がいって会話を交わすことで、気持ちを届けて、受け止めてもらう、まさにキャッチボール。投げ方が上手いかわからなくても受け止めようとしてくれる相手がいる。受け止めてから、「こういう事？」ともう一度キャッチボールが構えてくれる。いろいろな手段でのキャッチボールがあります。一人でいたり、考えたりしてもどこか寂しい。一緒に考えてくれる人がいるから不安や悲しみも半減する。一緒に喜ぶ相手がいるからこそ嬉しいことも何倍にもなる。家の中では家族と会話して、外では外の方々と会話を生きている。声は出なくても、言葉が出なくても、表情やしぐさ、目線、笑ったり、泣いたりして発信できる。わかってもらうことで通じ合う事がたくさんある。相手が理解するためにどう伝えたらいいのか考え、学びながら勇気を出して伝えられているのではないかと感じます。相談支援専門員になつて、希望する生活を伺うことで、どうしたら希望が叶うのか、いろいろな方々と一緒に考える機会をいただいている。たくさんの方とのつながりに感謝しています。時には夜空を見上げおしゃべりすることも。きれいに輝き続ける星になった方々と、心の中でおしゃべりをします。「素敵な時間をありがとう。いつも、みんなを見守っていてね」と。思い出しておしゃべりすると涙が笑顔に変わります。

先日、「重症心身障害児(者)を守る会 合同研修会」に参加させていただきました。守る会の歴史や障害福祉の動向、時代の風と共に未来に向けて前に進むことが大切だと教えていただきました。そして、同じ気持ちを持つ方々と会うことが出来て一緒に頑張つて下さる方がたくさんいることも感じました。対話をする事で前に進める。私もみなさんとたくさん対話をしたい、笑顔の会話があふれるようにお手伝いが出来たらと思っています。

職員リレー

自分にできる支援を考えて

日立太陽の家 相談支援専門員

山里 和矢

昨年11月から週に2日、

日立太陽の家相談支援事業所でお世話になっております山里と申します。週に2日ですかなかなかお会いすることがない方が多いと思います。この名前、聞いたことあるな？知らないな。という方のために簡単に自己紹介させていただきます。新潟県生まれの日立市育ち、趣味はサッカーと模型造りです（コロナ禍にはUFOキャッチャーにはまっていました）。平成7年4月に社会福祉法人ひたち育成会みなみひまわり学園に入職。その後、令和6年に退職するまで、働かせていただいております。という気持ちでくださる方もいらっしゃるかもしれません。

う方もいるかと思いますが、で、簡単に説明します。認知症や知的に障がいがあり、お金の事、施設との契約の事、入院の事、などを一人で行うのが難しいな、という方のお手伝いをする仕事になります。

なぜ、長年働いた仕事を辞めて、このような仕事をしようと思ったのか？と思います。こちらもちよつとだけお話ししますと、育成会にいた時に今のように福祉サービスが充実していなかった。その当時のお母さん方とお話をしてもつと長く預かって欲しい「レスパイトサービス」、外出に支援が欲しい「外出サポート」将来住むところがない「グループホーム」というように新しい事業を一緒に考えてきました。今は、生活介護や短期入所、通院等介助や移動支援といったサービスが充実しており、就学中の皆さんにも放課後デイといった便利なサービスができました。

「子どもが施設に入ったら私はどうなるの」という問いがお母さん方から上がりました。その問いに私が考えた答えが「成年後見」という制度です。しかし、成年後見人になるには自分のいる事業所の職員は担当できない。ちよつと難しい言葉ですが「利益相反関係」になるので担当できないという事が分かりました。なので、育成会を退職して自分でできる支援をしようと思つたわけです。成年後見制度を利用してお母さん方が心配していた「私が死んだ後、子どもはどうなるの」「子どもが施設に入ったら私はどうなるの」という困りごとを支援したい。「自分でできる支援を考えて」というお題にたどり着きました。

「笑顔の『成長』をめざして」
母子療育ホーム 理学療法士 手塚 拓也
あつという間に一年が終わり、新しい一年を迎えました。毎年、去年の一年間は何かできなかった、今年こそは何か成し遂げよう！と意気込んで何もしないまま一年を繰り返してしまいます。一年を振り返ってみると、ホーミングのお子さんの事を考えてみると、わたしとは違い、みんな着実に成長されていることがわかります。

例えば、お話しする言葉が増えた子や、相手を意識することが苦手な子が職員の間を渡してくれたり、おもちゃを渡してくれるようになったり、座ることができるようになったり、今は座りながらおもちゃで遊べるようになったり、歩くことも難しく、歩行器でも進めなかつた子が一歩一歩進めるようになってきたり……話を挙げればきりがなく、みなさん素敵な笑顔を見せてくれます。そして、素敵な笑顔も見せてくれます。そこには、本人たちの頑張りもあるし、お母さんたち家族の支えや頑張りがあるのだと感じています。

笑顔と感謝

息子の笑顔と

寄り添いながら

しいの木学園利用

保護者 西 弘子

息子がしいの木学園に通い始めて、今年で早いもので4年目になりました。朝、なかなか起きない時に「今日はお休みする？」と聞くと「行く」と言っただけに起きてくる姿を見ると「毎日楽しいんだなあ」と感じます。帰ってくるころには、園芸班での畑仕事や花作りで、顔から作業着まで真っ黒。土をたっぶりつけて帰ってくるので、洗濯は大変ですが、その元気に笑ってしまいます。

通勤はバスを利用しているのですが、時々、「今日もイタズラしてたよ」と目撃情報を感じることがあります。こちらは少し心配になりますが、本人にとつては一人で過ごせる貴重な時間になっているようで、満足そうな表情でお土産（道端の花）を持って帰ってきます。そんな姿を見ると、心配半分・なんだか微笑ま

しい気持ち半分にもなりません。

施設はとても良い雰囲気です。職員の方たちも息子のペースに合わせており、安心して通わせられる場所です。なかなか後輩が入らず、いつまでも若手と言われる、先輩利用者さんに可愛がってもらっているようです。仲良しの利用者さんもできたようで、帰宅するとその日の会話を嬉しそうに教えてくれます。その様子を想像するだけで、とってもほっこりします。誰かと笑い合っている姿は、過ごせる時間ができたことは息子にとつて大きな支えになっているようです。今後は、新しい事もどんどん取り入れ、さらに良い環境になっていく事を望みます。

これからも息子が毎日笑顔で通い、仲間とともに成長しながら、できることを少しずつ増やしていく姿を、家族みんなで見守り、時には一緒に喜び合いたいと思います。今後もしっかりお願いいたします。

日立市障害者共同生活
援助施設を利用して

保護者 鈴木 和枝

日立市障害者共同生活援助施設を利用して一年九か月が経ち、今では日立市障害者共同生活援助施設で過ごす時間が息子の楽しみとなっています。利用のきっかけは、将来の自立に向けてショートステイを始めようとしたのですが本人の拒否で入館できずに失敗に終わったことで、その経験からまずは共同生活援助施設の利用を相談員の方から提案されました。

日立市障害者共同生活援助施設を紹介されましたが息子はもとより新しい場所に拒否感を抱くどころか、むしろ、案の定初めての見学時も玄關までたどり着けませんでした。根気よく支援員の方に対応いただいたことで、三度目できるようになりました。落ち着ける場所を見つけたことができた。

利用当初は本人なりに気を使っていたのかスムーズに行動していましたが、回を重ねると不適切な行動が見られるようになりました。親としては申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、「問題が見つかれば修正していけばいいだ

けです」という言葉をいただいて少し心が軽くなりました。二十五年息子を育ててきてどうしても出来ないことばかりに目を向けがちでしたが、日立市障害者共同生活援助施設の利用を通して息子なりに成長していることを再確認できました。今の息子の長所は何でもよく食べることです。日立市障害者共同生活援助施設での食事は毎回完食で、いつもおいしそうに食べているようです。体重の心配は常にあるのですが、良く食べて元気に動けることに感謝しています。

日立市障害者共同生活援助施設の利用は、私たち家族にとつて日常生活のちょっとしたスパイスになっています。利用日は夫婦で出かけて食事したり、のんびり過ごす時間を満喫しています。支援員の皆さんをはじめ周囲の方々の支えに日々感謝しております。

ホーム、太陽、ピッピ……

俺の人生の色々な出会い

日立太陽の家居宅介護サービス利用者

石原 誠

1979年8月9日に生まれた俺は、大きく生まれた

0才〜18才、母子療育ホームに行ったら
お袋と赤ちゃんの時に、ホームに行ったら
小さな時は可愛かった（ヘッヘッヘ）
ホームで、佐藤M先生に会った
いっぱい抱っこしてもらって、
いっぱい歌った
音楽が大好きになった
第1回ピッピコンサートを見た
友達（のりお君）の姉がピッピ
コンサートで歌った
だから、いっぱいやりたいと思った

小学生の時に、ぞうさんを作った
ピッピコンサートで初めて子供
でやった

小又さんをお願いをして、俺は
17才の時にピッピのスタッフに
なった
初めてラブソングを作った

俺は18才で、母子療育ホーム
をやめた
ゆうあいに行ったら 作曲をや
りたいから
見田Yさんのようになりたいと
思った

ゆうあい、ちあきさんに会った
（次頁へ）



羽子板を作成しました。お花や水引などそれぞれが個性をいかした作品ができあがりました。今年もたくさんの笑顔にであえそうです。(太陽の家)



人形劇かくれんぼさん公演、人形たちの動きに釘付け、年に一度の楽しい時間です。(ひまわり学園)



みんな全力で楽しむことができたふれあい運動会。利用者さん・保護者さん・職員みんなではいチーズ!! (しいの木学園)



片栗粉に絵の具を混ぜての感触遊び。変化する手触りに興味津々。トロトロ具合はいかが? (母子療育ホーム)

※写真撮影のためマスクをはずしています

(前頁より)
初めてピッピのバーベキューに行った
黒田さんに会った

お袋とケンカをして、お袋を転ばせた
やつちやいない事だった
今でも思い出して、反省をする

ピッピ8回、9回、10回で初めて作曲をやった
(見田さんとやった)

星野Mちゃんに会った
シュガークラフトにも会った
ヒマワリを作った

ピッピ12回の時に、飯田ピーに会った
いっぱい話をしたから、友達になった

ピッピ13回で、笑顔を作った
そして、お袋が死んだ
いっぱい悲しかった

俺がワガママを言って怒ったから、長く姉とケンカをした
みんなに相談して、太陽居宅に行く事になった
また、黒田さんに会った(嬉しかった)

ピッピ15回の時に、鶴沢Jさん、Mさんに会った
俺は、いっぱいビックリした

Mさんの母は佐藤M先生と言った
ミニピッピで初めてMCをやった
40周年でも、少しMCをやれてよかった
これからも色々な出会いと共に、俺は生きていく

お知らせ

◎二〇二五年度
NPO法人日立太陽の家
利用者総数 三百八十三名
男性 二百十四名
女性 百六十九名

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 九月〜十一月
黒澤弘明 金澤博美
早川太一 とく名
○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略) 九月〜十一月
椎名将光 黒澤和子
篠原小百合

編集後記

「謹賀新年」
「笑顔と感謝」
年の初めに皆様へ心を込めてご挨拶。
(k記)
笑顔と感謝が合い言葉

